

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和3年度第1回寒川町自殺対策計画推進協議会		
開催日時	令和3年7月19日(月) 午後2時30分～		
開催場所	東分庁舎 第1会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	出席者：桑原委員、物部委員、佐藤委員、山下委員、森井委員、小西委員、三留委員、木村委員、多田委員、常盤委員、稲葉委員、大胡委員 欠席者：野田委員、井上委員 事務局：戸村町民部長、徳江町民窓口課長、三留町民窓口課副主幹 傍聴者：なし		
議 題	(1) 「令和2年度寒川町自殺対策事業実施結果及び令和3年度事業計画」について		
決定事項	・議事録承認委員は、輪番制。 今回は、桑原委員及び物部委員が務めることを確認。		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会 徳江町民窓口課長</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 あいさつ 木村町長</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 会長・副会長の選出 稲葉委員を会長に、木村委員を副会長に選出。</p> <p>6 議事録承認委員の指名</p>		

承認委員は輪番制。今回の承認委員は、桑原委員と物部委員が務めることに決定する。

7 議題

(1) 令和2年度寒川町自殺対策事業実施結果及び令和3年度事業計画について（資料3、4、5、6）

- ・資料3、4、5により令和2年度寒川町自殺対策事業実施結果について事務局から説明
- ・資料6により令和3年度事業計画について事務局から説明

【稲葉会長】委員の皆様からご意見、ご質問等がございますでしょうか。

【桑原委員】ただ今のご説明では、高齢者の方がハイリスクということですね。寒川町もやはり高齢の方が多いのですけれども、先ほどのご説明では、2020年度が3名ということでした。一般的に自殺者数は多くなったり少なくなったり揺らぎながら推移していくので、来年度末の数も見なければいけません。寒川町の計画も策定され、具体的にゲートキーパー養成なども始まっていますので、ぜひ高齢者の方への、いろいろな形での支援を引き続きしていく必要があるかと思えます。今回、コロナ禍の問題がありまして、コロナに実際に罹患すると、そのことだけではなくて、生活上・経済的な問題、差別や偏見の問題など様々な課題が発生して非常に大きな負担になってきますので、特に高齢の方は今後の状況に注意しながら、包括的な支援、計画にありますようなライフの視点に沿った包括的な支援、命と生活と人生の支援を、町民挙げて行っていけるといいのかなと思えます。寒川町の自殺実態プロファイルでも60代が多くはなっております。これは全国的な傾向でありますけれども、やはり気にかけて、注意して見ていく必要があるだろうと思えます。

【稲葉会長】ありがとうございました。

その他に委員の皆様からご意見、ご質問等がございますでしょうか。

【小西委員】事務局からのご説明で、自殺者は2015年から19年の間に、自営の方がお一人で、反対に被雇用者、こちらが13名、私はもう少し自営の方のほうが多いのかなと思いましたが、意外と会社勤めだったりお仕事を持たなかったりする人たちが追い込まれているというのは、何かそこに弊害があるのかなということと、あと、若い方たちが思ったよりも少なかったというのは、きっと学校の状

態がいいのではということも考えられますよね。その反面、高齢者の方、しかも同居家族のいる高齢者の方が多いというのは、今、コロナ禍でいろんなイベントが中止になる中、集まる楽しみを持って出かけるところがないとか、そういうのも関係しているのかなと思いますので、やはりそちらにまた焦点を、この機に考えていく必要があるのではないかとということ、先ほどの説明から感じましたので、よろしくお願いします。

【稲葉会長】 ありがとうございます。

先ほど桑原委員からも、揺らぎがあるということでの話がありまして、今、小西委員から学校の対応がとてもいいんじゃないかというお話もありました。その辺り、木村副会長、学校現場ではどんな様子でしょうか。

【木村副会長】 コロナの状況になってから、小中学生の鬱状態とかという報道は出されていますけれども、学校ではなかなかそういう状況を見つけることができないでいます。多分、子供たちはいろいろダメージを受けているだろうと思いますが、表面上、普通に学校生活を送っていますし、ここに来て、お休みが増えたという子もいません。いないけれども、それでいいかと言ったらそうじゃないだろうという部分がとても多いので、そこを一体どこで気づくというのがあります。いじめに関して言えば、そこまで追い込まれている子はいないと思いたいのですが、絶対ゼロではないよなというところは学校ですからありますので、やっぱりそこもしっかり見ていかなければいけないと思います。

【稲葉会長】 ありがとうございます。その他に委員の皆様からご意見、ご質問等はございますでしょうか。

【桑原委員】 先ほど、寒川町の状況については承知しましたが、令和2年の全国的な自殺者の推移の状況についてもみておきたいと思います。皆様も既にご案内のとおり、女性の自殺者の増加が顕著でした。特に著名な芸能人の自殺が相次いだ7月、10月に、マスメディア報道の影響を受けて、女性、特に、高校生、30代の女性の自殺者が急増したということがありました。もう一つは、今、木村委員からもご指摘があったように、中学、高校生の自殺数が令和2年には大幅に増えています。今回のコロナ禍のもと、男性自殺者数の増加に比べて、女性の方がなぜ多かったというのは、例えば仕事の面でも、飲食店などで働く非正規雇用の方が職を失うことが多かった、あるいは、休校などで家庭で過ごすことが多くなった子供、オンラインでご主

人が家で仕事をする機会が増えたといったこと、あるいは介護の問題など高齢者を支える世代の女性、やはり 40 代、50 代、70 代の女性で、ストレス要因が急増したといったことが言われています。従って、そういった全国的な状況も視野に入れて、寒川町でも、今後、女性や子どもの自殺者数の増加の動向を注視していく必要があるかと思えます。以上、追加補足です。

【稲葉会長】 その他に委員の皆様からご意見、ご質問等はございますでしょうか。

(意見等なし)

【稲葉会長】 ありがとうございます。皆様から、そのほかご意見よろしいでしょうか。計画に基づきまして、進捗の確認シートが示されておりますけれども、この辺りについてのご質問もよろしいでしょうか。

(意見等なし)

【稲葉会長】 ありがとうございます。

8 その他

【稲葉会長】 では、6 番の「その他」に移らせていただきます。皆様方、日頃の取組ということで一言ずつご発言をいただければと考えております。私の寒川町社会福祉協議会は、コロナの緊急貸付けということで、貸付けの部分で生活困窮の方へ支援させていただいておまして、ふだん社会福祉協議会に関わることはないような方々がご相談に見られているというような状況にございます。やはりその中では、もう生きていくのが嫌だよ、死にたいんだというようなご相談もあります。例年はないほど、ぽろっとお話をされるということがございまして、そういったときには関係部署、町民窓口課あるいは、けやきの森の先生にも何度もご相談をさせていただいているのが今年度の状況でございます。それぞれの関わりの中で、コロナを含めまして近況の状況をぜひご発言をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。まず、民生委員としまして、地域でお関わりいただいております森井委員、最近の地域の状況はいかがでございましょうか。

【森井委員】 今、話を聞いていて、60代の方が多いということはちょっと残念かなという気持ちと、私も、うちは幸いにして、舅、姑自分の両親

ともに、ひどい介護でということは体験しておらず、無事に送ることはできました。ですから、若干は介護させていただいたこともありますので、経験はあります。家族といたしましては、やっぱり嫁である自分のところに何となく負担が来てしまったり、子供も全員男だったので、子育てと両立していくのがどれだけ大変なのか、また介護されなきゃいけない立場の方にもいろんな負担があるというのはとても感じて、両方で話はしつつも、私はおかげさまで、何も送らせていただきました。でも、実際にやっぱり長く患っている方たちを介護されるというのはすごく大変なことも事実だと思います。私たち民生委員は、割と独居の方とか訪問させていただいて、同居の方も何人か行きますけれども、そんなにたくさんの方というところまでいってないのもまた事実で、ちょうど見えない部分で起きていることが、私たち民生委員としてどうしていけばいいのかなと今考えていました。またさらに、コロナ禍ということで動きが取れない状態で、万が一うつしてしまったらいけないという思いと、一応、活動に当たってはガイドラインを作りまして、少しペースダウンをしたり、あまりいっぺんにたくさんのおうちを回らないようにと幾つかのガイドラインを作って、皆さんには協力していただいておりますけれども、本来でしたら去年、3年に一度、高齢者調査という調査をしていました。ただ、今までは65歳以上の方を対象にしていたので、結構いろんな方にお会いできましたが、去年はもうそれができないということになってしまって、行動がすごく狭まっていることは残念だなと思っております。今、できるかどうかは分からないけど、今年はやりたいなという思いから、10月、11月にかけて、65歳以上ですと1人に負担が来てしまう部分も、たくさん回らなければいけない部分もあるので、今回は75歳以上の方を対象にさせていただきながら回っていきたいと思っている次第です。児童の問題も、私たち、児童委員という言葉もありますように、児童委員でもありますが、ほかに専門というか、主任児童委員というのが主にやっているのですが、そういう人と関わり合いながら、いろいろと目を向けていきたいと思っています。しかし、今まででしたら学校を訪問させていただいて学校の先生とお話ししたりできましたが、コロナ禍になってからはまだ行けてないというのが事実ですので、見えないものが増えてきているため、また考えていかなければいけないと思っています。

【稲葉会長】 ありがとうございます。続いて小西委員お願いします。

【小西委員】先週、社協で緊急援護資金をお借りするという方に立ち会ったのですが、まだその方は50代で、その娘さんが学校時代にいじめに遭って、それから、重度の鬱状態でいらっしゃるということで、リストカットを何度もなさっているそうです。だから、この炎天下の中、クーラーの補助費のためにいらっしゃるって、私、聞いていて、こんなにつらい思いばかりしてきている人がいるのだろうかということ、お話を聞いていて本当にいたたまれなかったです。表に出る部分は、8050問題もあるじゃないですか。私、鬱になっている方というのは、表に出ていない部分も実は結構増えていると思うんです。だから、私たちは、自分から見いだしていくのはできないのですが、できるだけそういう人を見つけたら力になりたいとも思うし、もちろん守秘義務があるので、注意しながらということは考えられますが、本当にそういう鬱状態になって、もうどうしようもなく、リストカットを何度も繰り返しているような、私の知人にもそういう方がいらしたので、これは本当に表に出てない部分でそういう方がいるので、すごく危惧を覚えました。ただ、そういったことから自殺するというのは本当に多いのかなと感じました。

【稲葉会長】ありがとうございます。小西委員から、病気の関係のお話が出てきましたが、物部先生、地域の医療の中でどういった状況でしょうか。

【物部委員】私たち病院で治療している者としては、病院に来られる方については、もちろんできる範囲のことは提供できるのでいいのですが、問題は、病院にたどり着けない方たちを一番何とかしなきゃいけないのだと思います。いろんな理由で来ない、受診できないと思うのですが、もちろん経済的な理由でもそうでしょうし、家族が理解を示してくれないからなかなか行けないとか、あるいは本人自身が精神科を受診することになかなか勇気が持てないとか、そういう自分は許せないとか認められないとか、そういった様々な理由で病院につながらないケースはたくさんあると思います。治療している方よりも、もっとたくさんの人たちがいます。それでは、これをどうすればいいかという、結局、病院に来ていただかないことには何ともできないので、こちらから出向いて行って治療することができないので、その方の周りの方たちが受診について後押ししてくれるような関わりができると本当は良いのだろうと思います。だから、病院には医者、看護師がいますけれども、おうちにも少しそういうような役割を担えるような方たちが一人でもいればいいと思いますね。つまり、病気についてある程度理解を示してくださる方、あるいは

異変に気がついてくださるような方がいらっしゃると本当はいいの
でしょうが、それが難しいから皆さん苦しんでいるので、そういつ
た大変さが実際の病院にかかってこない、かかれない方にはあるの
かなという気がしています。何とか病院を受診できれば、薬を使う
とか入院して休ませるとか、ある程度の手だてはありますが、もち
ろん来ていただければ、その方の家族にいろいろとアドバイスをす
る、どうやって支えていけばいいのかというのも、お話を伺うこと
もできますが、それもできない、病院にかかれない方たちの現状は
やっぱり何とかしなければいけないと思います。

【稲葉会長】ありがとうございます。なかなかコロナ禍で訪問できないというお
話がありまして、同じ民生委員として、三留さん、何かご意見ござ
いますか。

【三留委員】一応、今、私の地区の担当の中では、いたって深刻な問題がある方
はいないんですね。それこそ見えている部分では、そういう深刻な
問題を抱えている人は少ないですけど、でも、見えない部分でそう
いう人たちがいるのかというと、何かきっかけがないと、そういう
人たちを見つけ出すのも難しいなという現状です。

【稲葉会長】ありがとうございます。先ほど、森井委員からも介護のことでお話
があつて、その辺り、第一線で働かれている佐藤委員、現状として
いかがでしょうか。

【佐藤委員】昨年はコロナがはやりまして、やはりデイサービスでありますとか
そういうものに行ってしまうとコロナにかかってしまうというよう
な恐怖で通うのをやめられる方もいらっしゃいましたし、また、地
域で行われていたサービス活動等も休止というような形で、なか
なか皆さんが会う機会に恵まれず、うちに籠もってしまい、鬱状態
とまではいかなかったとしても、皆さん、何となく元気がなくなっ
てしまうというところが見られました。そうはいっても、皆さん、
少しずつ外に出つつあるところもあり、私どもで70歳以上のお一
人暮らしの高齢者の何もサービスにつながない方の訪問活動
をしておりまして、いきなり職員がお邪魔して、そこでお話を聞く
ときに、死にたいんだよというようなお声をいただく方は逆に健康
的といいましょうか、悩みを飛び込みの職員でも話して聞いてほし
いというところだと、受診等を勧めることができますが、やはり
飛び込みの職員にそういったところまでお話ができる人はなかなか
多くなく、少ないというところで、ふだんからの変化に気づく視点
が大事なんじゃないかと思います。やはり行ってお話しできる方は

少ないので、ご近所の方でありますとか、そういった普及活動、こういったところに注意をしなければならないのかというような普及啓発という部分が大事なのではないかと思います。

【稲葉会長】ありがとうございます。今日、野田燈委員がご欠席ですので、児童・生徒さんに関わる部分は木村先生だけですが、補足はございませんか。

【木村副会長】少し外れてしまうかもしれませんが、お話しさせていただきますと、子供の育っている家庭状況がどんな状況にあるのかというのは非常に見えにくくなっています。これだけ仕事がなくなくなっているのに、うちの子たちの親は大丈夫なのだろうか、親が追い詰められてしまった場合、あの子たちが生活するというのも心配ではあります。また、働き盛りの方も今、自ら命を絶ってしまうということがあるので、そういう親の子供になってしまう可能性も今の小中学生は抱えているなという不安もあります。ただ、なかなか見えてこないですし、そのような悩みを学校に相談してくださる方はそうそういないので、本当にふだんの服装などをきにすることぐらいしかできず、なかなか学校から大丈夫ですかとは声をかけにくい状態ではあります。

【稲葉会長】ありがとうございます。おっしゃるとおり、本当に複合的な問題になっていますので、子供は子供だけということではないということはわかりました。それでは、その他の部分でコロナの影響を今後一番受けていると思われる就労年齢というか、若い方に関わっていらっしゃる保健福祉事務所、山下課長お願いします。

【山下委員】当所は生活保護ですが、社保さんがやっていたらしゃる貸付けが途切れた後には、当所のほうで生活保護につながる方のための準備はしています。今まで生活保護については横ばい傾向が、ここ数年、ずっと続いていましたが、やはりコロナの影響というところで、前年同月比で大体10%前後増えてきて、今、増加に転じている傾向が見られております。ご相談にいらした方は、やはり相談が終わると少しほっとされたような様子になっておりますので、まずは、たどり着いていただけるところが重要なところかと思います。生活に困っている方が増加しているということで、生活保護は今、制度の改正が続いておりまして、また、扶養照会、親族の方に知られてしまうから受けたくないとか、例えば、自動車を持っていたら受けられないのではないかとか、そういったところも現段階においては、新型コロナウイルスの影響がある場合はいいですよとか、扶養

照会についてもかなり緩和されたところがありますので、まずはご相談につながっていただければなと思っております。

【稲葉会長】ありがとうございます。また、コロナの関係では、働いていた方が直撃を受けたため、相談が一番多いのではないかと推測するんですが、多田委員、現状、どういった様子でございましょうか。

【多田委員】働き方についての、精神障害の発症の大きな一つの要因として、長時間労働が挙げられております。2019年の法改正で、それまで残業時間の統計については、労使の取決めがある場合は、いわゆる青天井な状況でしたが、それではよくないだろうという話で、上限規制が2019年からかかることになりました。まず、その規定をしているところではあります。しかし、今、お話しいただいたコロナ禍で、仕事の時間については長時間というような方向に向かっていないように見えるところもありますが、実際は、昨年度の労働災害の発生の件数は十数年ぶりの高水準の発生件数になっています。これは、仕事時間は短くなっているから労働災害の件数が減っていいところだったのですが、非常に件数が多かった。今年度に入っても、昨年度の件数と比べても二、三割増えている状況です。一応、現状、長時間労働のほうは抑制が進んでいくと決めつけてしまうのはよくないところですが、その辺は注視をしていきたいと思っています。

【稲葉会長】ありがとうございます。桑原先生、やはり平時ですと、長時間労働などが精神疾患につながるということで、今、多田委員からお話がありました。やはりコロナ禍において、所得が不安定だとかそういったものが精神疾患ですとか自殺につながってくるという点についてはいかがでしょうか。

【桑原委員】もともと今回、国ぐるみで自殺対策をしなければいけないということになったきっかけは、平成10年の経済不況が問題でした。ですから、今回のコロナ禍でも、経済的不況に陥って、自殺者がものすごく増えるのではないかといわれ、コロナ禍が始まった直後に。ある研究所は年間1万人ぐらい増えてもおかしくないといった予測を出したりしていました。でも、実際には自殺者数はそこまでは増えなかった。一方、自殺未遂、企図にかかる緊急の支援とか、あるいはコロナに関連した電話相談も大幅に増えていますし、実は私、冒頭の自己紹介で申し上げましたように、今、精神科診療をしています。精神科クリニックでも、コロナに関連した悩みで受診される方が相当増えています。話を聴いてみるとやっぱり、先行きが見えない、見通しがたたないということが一番大変なようです。そして健

康問題では、眠れなくなったり食べられなくなったり、「うつ」に陥ったりしています。ただ、このように一人で抱え込まずに相談できる体制が整えられてきたということが大きかったのではないかと思います。体、暮らし、心の不調の負の悪循環で膨れ上がってくる問題を自分だけで抱え込まないようにすることが大切です。そして、精神科を利用する前に、自死に向かう悪循環に陥らないようにするには、身近な人が親身になって話を聞くなどが有効であることがわかってきていますが、これまでの自殺対策の取り組みによって、そういったことが少しずつできるようになってきていると思います。先ほどお話があった、75歳以上の方を対象にした支援にしても、集団ではできませんけれども、話を聴いてくれるところがあるよとか、そういった地域でのつながりの輪が少しずつできてきつつあります。その結果、今回のコロナ禍のなかで経済的に見通しが立たなくて苦しい状況にあって、どうしようかと悩む人は実質的には多くなっていると思うんですが、その割には、短絡的にもう乏死ぬしかないとか、死んで楽になりたいとか、そこまで追い詰められることなく、何とかぎりぎりのところでこらえられている、自殺者が予想よりも抑えられているという結果につながっているのではないかなという気がいたします。

ところで、寒川町の相談窓口はどうでしょうか。私は厚木市で診療していますが、厚木市の行政職員の大変さというのは実はいろいろと見聞きしております、相談件数自体も増えてきていますし、相談に来られる市民の皆様方に、余裕がなくなってきて、ちょっといらついている。市職員に対する文句が増えていて対応にすごく困るとか、仕事量が増えてオーバーワークで心身の不調に陥るとか、行政職員の方たちが大変な思いをしている状況になっています。このように、市の各相談窓口には様々な課題が絡み合っているような悩みごとが持ち込まれたときには、いろいろな関係部署と連携して対応できることが必要となります。

先ほど、家庭の問題、非常に複合的な問題とありましたけれども、お子さんの問題が親御さんの問題に、あるいは親御さんの問題がお子さんに関わってくるということはありますので、ぜひそうした問題を市職員相互の連携協力によって乗り切っていく。今でも、現状はやっぱり厳しいと思いますが、日常生活上の困りごと相談の潜在的なニーズはどんどん増えてきていますし、うつになる方も非常に多くなってきていますので、そうした町民の方々を、死ぬところま

で追い詰められることなく、何とか支えていくために、できるだけ相談窓口で相談者の異変に気がついて、話を聴き、そして、必要であれば医療につなげるとか、あるいは、できる範囲内のいろいろな支援をしていくという、いわゆる庁内各部署のゲートキーパーをどんどん増やしていく、こういったことが必要だと思います。コロナ禍で業務多忙になっている状況でなかなかそこまでできないということもあろうかとは思いますが、それが自殺対策の王道といいましょうか、まず基本的に大切なことなんじゃないかと思います。

【稲葉会長】ありがとうございます。今、桑原先生がお話のように、コロナの予防、ワクチンの予防接種の対応も、かなり役所には町民の皆様からきついお言葉でのお電話も入ってくるんだというようなことをお聞きしておりますが、やはり町民の皆様だけじゃなく、そういった職員の方の**関わり**が大事なんだなと。特にコロナでいろんなお考えがありますので、各方面に気を遣わなきゃいけないんだなというのが、今、先生のお話からよく分かりました。ありがとうございます。今度は、一般公募でいただきました大胡委員、皆様のこういったお話をお聞きになっていて、いかがお考えでしょうか。

【大胡委員】なかなか病院にたどり着けない住民の支援というところで、やはりそこはコロナの影響を受けて、地域間での集まりとか希薄になっているなというのは重々感じました。私、今、マンションに住んでいるんですけども、その間の連携もだんだん希薄になったりして、いろんなところで誰かがたわいもないお話とかというところも見る場面が減ってきているので、そういうところでもう少し集団で集まったり、難しいかもしれないですけど、そういうお話ができる場とかがあって、この人、大丈夫かなというところで、そういうところで気づくことができるんじゃないかと思ひまして、そういう支援が必要かと思っております。

【稲葉会長】そうですね。ここで結果に出ている項目だけじゃなくて、ちょっとした声かけとか、そういったご近所の関係ですとか家族のことだとか、そういったところの支援が一番大事だなと感じます。それでは、全体を通して、警察のほうで常盤委員、全般的なところでお話しただけの範囲で構わないですがお願いします。

【常盤委員】まず、前提としてお話ししたいのは、警察は自殺対策という部分に関しては非常に限定的な部分でしか関わることができません。というのも、我々は基本的に警察法令にある法令の執行機関という立場を取っているということも**兼ねて**話を聞いてください。自殺対策と

いうのも、時間軸とか深度があると思っています。まず、何らかの原因があって、何だか嫌なことがあって、だんだん死にたくなってきて、いよいよ死ぬぞ、死ぬぞ、実行行為に移してしまった、お亡くなりになってしまったという時間軸があると思います。まず、入り口の部分では、警察ってかなり無力だと思っています。例えば、コロナで困窮しているとか、そういったものについて我々は何もできませんし、何かやってあげられるというのは、例えば、自殺の原因がいじめであったとか、そういう場合であれば、いじめている子供をやめさせる、もしくは、ひどいものであれば、年齢も14歳以上ということで罪に問えるものであれば、犯罪少年ということで取り扱って、いじめをやめさせるとか、そういうことは可能ですけれども、同じ犯罪的なものでも、**オレオレ**詐欺の被害に遭ってしまってお金を取られてしまった。悔しいし、苦しいし、死にたい、犯人を捕まえてくれ。捕まえても、お金は戻りませんので、これは、救済もありますけれども、犯人が全部金を使ってしまったら戻せないのです、そこを補填してあげることにはできません。なので、入り口に関してはかなり無力だと思っています。いよいよ死にたい、死んでやるとなったときには、ある程度我々も絡んでいくことができます。というのも、精神保健衛生法23条に、警察官からの保健所に対して通報というのがあるのですが、自傷の疑いのおそれがある、現に今、精神錯乱の状態にある方については、警察から保健所に通報して、医療機関につなぐことによって、強制的に精神病院に入院させることができるので、そういった切り口で我々は自殺したいという方と関わっている形が一番多いかなと思います。その入り口の部分として、ご相談という形で、死にたいんだとか、あの人、死のうとしているよというので関わってきて、我々警察の究極の目的というのは、個人の生命、身体、財産の保護ですので、生命の保護という部分で関わっていくところになっているのが警察にできるところです。いざお亡くなりになってしまうと、対策にはならないですが、お亡くなりになった先というのは完全に我々の範疇になってきて、要は、犯罪死かどうかというのを検案しなければいけないので、そこでご遺体について、特に自殺者については全て我々が見させていただきます。多分、この中でご遺体を一番見ているのは私だと思います。二十何年警察官をやっています。100体以上のご遺体を見てきています。その中には、飛び降りでお亡くなりになった方もいらっしゃいます。自分から電車に飛び込んで、胴体真っ二つというご遺体

を扱ったこともあります。同じく電車に正面衝突し、本当に顔が誰だか分からないぐらい腫れ上がってしまっている方もいました。首つりで亡くなっているご遺体、私、実際に担いで下ろしたこともあります。いろんなご遺体を扱っております。また、そこから先は、事件かどうかという部分の関わりになってきていることしかできないなということで、自殺対策という部分については、警察は正直、無力なところが多いと思います。ただ、そこでやっていかなければいけない部分で、私の今までの経験でお話をさせていただくと、先ほど、冒頭、桑原先生から、タレントの方が亡くなって、後追いの自殺があるというようなことがあるんですけども、後追いというのは本当にあります。私、前任が横浜市瀬谷区の瀬谷警察というところに2年間ほど勤めていたのですが、昨年2月、1年半前に、瀬谷区の瀬谷駅というところで女子高校生が電車に飛び込んでお亡くなりになりました。そのときに、その子はホームからふらふらと行って飛び込むんですけども、それをリアルタイムで自分のスマホでライブ配信できる状態にして、ホームのベンチに置いて、飛び込んでいる動画が完全にライブ配信されているんですね。多分、まだネットを探せば、この画像あると思いますけれども、ひかれて遺体になったところは映ってないんです、ホームの高さなので。ただ、ふらふら一つと行って、ころっと落ちた直後に電車が入ってきているので、これ、特撮じゃなきゃ死んでいるよねというのが分かるような画像が流れました。結局、瀬谷駅が悪い意味で聖地化してしまって、そこでその後、2名ぐらいお亡くなりになっているのかな。1周忌、命日には警察と駅で点検して警戒もしましたがけれども、自殺してしまった理由というのは、思春期の悩みのものがいろいろとあったみたいですけども、今、ネットの時代で怖いのは、話が勝手に独り歩きして、伝説になっちゃうんですね。伝説をみんなが勝手につくってしまうんですよ。その子の書いていたツイッターの書き込みだとか過去のを勝手に遡って、「お父さん、嫌い」と書いてあった一文だけとらえて、お父さんに虐待されていたのではないかと、警察は何で父親を捕まえないのかだとか、そんなものがどんどん、どんどん勝手に転がっていってしまう。それを見て変に、関係ないくせにと言ったら申し訳ないかな、関係ないのに感化されて、そこで死のうみたいになってくる子とか、やっぱり実際出てきます。死んじゃった子もいました。なので、そういった後追い等がないようにするために、ネット上のデータを削除していただくような形

で、サーバー管理会社などに申立てをしたり、それがいろいろな規約で、警察からの申立てでは消せない、ご遺族からの申立てでなければ消せないよというような規約を取っているような会社もありますので、そうなると、つらい中ですけれども、ご遺族にはそういったものが残ってしまっているのです、お嬢さんの画像ですからということで消してもらおうような申立てをしてもらったりとか、そういったお手伝いをするところは多々ありますが、警察はこのテーマについてはそのぐらいしかできないのかなという部分ではあります。ただ、少しでも我々としても他の行政機関等につないで、悩みがある方というのは、それぞれに、もちろん持ち場や、部署ごとに強みがありますので、そういった強みのある部署には積極的につないでいかなければなりません。警察も、昔は本当にそういったことは、聞いて、ふーんで終わっていたところも正直ありましたけれども、やはり20年前ぐらいからかな、警察の中でも相談専門の係をつくりまして、どこの課にも属さないような相談というのは、ちゃんとそこで聞いて、結末まで、どこにつないだよとか、事件になるならどこの課につないだよというのを、結末をつけてあげる係、住民相談係というのがありますので、そういった係を中心に、ご相談があれば、やれる範囲内で警察の場合、させていただいているところでございます。

【稲葉会長】 大変貴重なお話をいただきまして、ありがとうございました。皆様方のお話を聞いていて、最終目的は自殺対策というところですけども、その前の段階での情報交換ですとか、そういった関係の皆様方の連携が大切だということは、お話を聞いていて、とてもよく分かりました。私には小学生と中学生の子供がいますが、今でも定期的に不審者情報、マチコミという情報サイト、下半身を露出したなどの情報が先週も流れております。そういうことの積み重ねが、こういった様々な問題がいろいろなことを皆さんで連携して考えながら、最終の対策としての自殺対策があるというのが、今日、皆様のお話を聞いていて痛感いたしました。ありがとうございます。皆様から一言ずつご発言をいただきましたが、まだ他にもお話ししたいことがある方はいらっしゃいますでしょうか。

【桑原委員】 私が、警察の方々に多大なる貢献をして頂いているのではないかと思っていることとして、警察庁からの自殺実態報告書があります。実は自殺対策が始まった当初、自殺の実態について、全然わからなかったんですね。でも、今はリアルタイムで毎月ちゃんと警察庁からの報

告がなされていて、先ほどの実態プロフィールも実はその統計結果が基になって出てきています。それから、交番で、私なんかもよく道を聞いたりしますが、本当に身近なところでしっかり相談への対応をしていただいている。警察というと、まず、取り締まることだけといったイメージをもたれやすいと思いますが、実は、かなり生活に密着した困りごとへの対応をして頂いています。特に生活安全課などは、様々な相談事の窓口となってくさっていますし、先ほどお話があったように専門的な対応が必要な場合には保健所の相談窓口につないでくださっている。そういう意味で、非常に大きな役割をしてくさっているということを感じています。

ところで、ゲートキーパーという言葉からは、何か大変なことをしなきゃいけないというイメージをもたれる方も少なくないと思いますが、実は今までの取組の中で、自殺が最も少なかった町、四国の海部町という町の特徴を調べた調査結果とか、自殺をなくす取組をしている財団での調査研究結果によれば、大切なことは、深く関わることじゃなくて、寄り添う支援というのでしょうか、興味を持って、ちょっとしたことで声をかけるとか、多様性を受け入れて細かい干渉はしない、困りごとは何でも話せるといったことがものすごく大切で、深刻に話を聞かなきゃいけないとか、代わりに何かしてあげなきゃいけないということではないとの報告がされています。実際、支援を受けるほうも大事になるようだと敷居が高くて相談できないわけですけど、興味を持って関心を持って声をかけたり、あるいは寄り添ったり、全部自分でやる必要はないので、早い話が、何か顔色が悪いみたいだけど、どこか悪いの？とか、そういうときに、眠れているの？とか、何かあったら医者に行ったらいいよとかいうことだったら気負わずにできると思います。実は、精神科も一昔前までは、非常に敷居が高いところでした。昔は心の問題というと、分からないし、治らないし、怖いというような感じがありましたけど、今はコロナ禍とか日常生活上の様々なストレス要因で心身の体調を崩すといったことが特別なことじゃなく、国民すべての人にとって身近で切実な問題となりました。職場の心の健康づくりでも、毎年、メンタルヘルスチェックが行われたり、職場の上司に一度精神科でちゃんと診てもらえと言われて受診する人が増えているんですね。ですから、そういう意味でも、自分1人だけで生きていけるわけではありませんので、やっぱりつながりの輪を作っていく、地域の資源を正しく利用できるようにするためのつながり、ネットワークを築くことが大切で、その大もとになるゲ

ートキーパー活動が重要になると思います。特別なことをするのではなく、とにかく身近な人の様子に関心を持って、自分には関係がないじゃなく、難しいものだからやらないじゃなくて、ちょっと声をかけたりできる、そういう人を寒川町全体で増やしていく。それと、町内の様々な立場の人達が、お互いに連携して、こういった問題があったら、例えば、どこどこに行けばいいよとか、町の行政相談窓口でも、こういったところが相談に乗ってくれると思うよとか、そういったぐらいの「後押し支援」というのでしょうか、それができるようになるといったことを目標にして、少しずつ地域のネットワークを充実化していくことが今日のコロナ禍における自殺対策の目標なのかなと思っています。

【稲葉会長】 ありがとうございます。ゲートキーパー養成講座、年2回実施ということで、これは予定どおりですか。

【事務局】 予定をさせていただいているところですが、やはり今、皆様方のお話を聞いていると、つながりというキーワードが大事なのだと改めて感じました。ゲートキーパーに関しては、やり方を考えなければいけないので、以前は民生委員さんにご協力いただくなどして、実際関わっていただくことが多いので、そういうことで一緒にやらせていただいたこともあるのですが、やり方をどうするか、そこが問題でもあるので、今、ワクチン接種も進んでいることなので、その辺等も併せながら研究したいと思っております。

【小西委員】 今、桑原委員のお話を聞いていて、私たちが担う部分も大きいのかなというのと、日頃から連携というのが、どこかにつなぐかというのが私たちの主な仕事なので、やっぱりそれは重要なのかなと感じました。

【稲葉会長】 どうもありがとうございました。その他に意見等ある方いらっしゃいますでしょうか。

(意見等なし)

・事務局から事務連絡

○第2回会議は年度末を予定

<p>配付資料</p>	<p>資料 1 寒川町自殺対策計画推進協議会委員名簿 資料 2 寒川町自殺対策計画推進協議会設置要綱 資料 3 寒川町自殺対策計画進捗確認シート（基本施策） 資料 4 寒川町自殺対策計画進捗確認シート（重点施策） 資料 5 寒川町生きる支援の関連施策一覧 資料 6 寒川町自殺対策庁内連絡会（書面開催）結果 ・（部外秘）地域自殺実態プロフィール2020（寒川版） ←会議後回収</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>・桑原寛 ・物部長承 (令和3年12月1日確定)</p>